

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援 みんなの基地		
○保護者評価実施期間	令和7年3月3日		～ 令和7年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年3月3日		～ 令和7年3月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「こどもまんなか」「こどもにとっての最善の利益」を大切に、そして細かに考えて児童発達支援を実践している。高い志と情熱を持つ職員がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの持てる力を更に伸ばしていけるように、こども自身が楽しみながら様々な経験ができるよう活動を計画している。</li> <li>こどもの関心が広がるようなきっかけづくりを活動に取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こどもまんなか」「こどもにとっての最善の利益」を大切に考えていくことは今後も変わらず継続していく。</li> </ul>
2	「個」を大切に寄り添い、丁寧に関わっている。少人数での関り。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとりひとりの個性を大切にしている。</li> <li>こどもの言動や表現を受け止め、寄り添いながら、推察、考察し、行動している。</li> <li>こどもの気持ちを置いていかないように関わっている。</li> <li>こどもの状況に応じて個別に関わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員数が充実したら全体的な質の底上げを図り、もっと個別に関わりたいと思っていた部分を充実させていく。</li> </ul>
3	清潔で、安心できる場所。	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理整頓や掃除を日頃からしっかり行っている。</li> <li>こどもが安心できるような関わりを持つように心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでしてきたことをこれからも継続していく。</li> <li>自分自身のこどもへの関りを振り返る機会も継続していく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境 個室がない。こどもの特性に応じた個別支援を行う環境設定がしづらい。視覚情報を制限しづらい、活動の直前準備において近くに準備して置いておくことができないために時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元々、ホールと小部屋、隠れ家(カームダウンスペース)のみ。情報量(興味を引くもの等)が多いと集中しづらいこどもの環境づくりがなかなか厳しい。</li> <li>収納スペースが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部屋は限られているため環境設定の難しさはあるも、こどもの状況に合わせた部屋分けや、机の配置、座る向きを工夫することで、こども達も順応できており、就学先において必ずしも個別環境の配慮がしてもらえとも限らないため、このままできることの工夫を継続していく。</li> <li>収納スペースを新たに設置することを検討。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員配置や職員間情報共有 少ない職員で個別支援を行うには制限がある。周知しておきたい情報など職員によって理解度合いに差が生じている。活動プログラム立案する職員に偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員数が基準人員ギリギリのことが多かった。</li> <li>フィードバックやコミュニケーション不足。</li> <li>職員定着が安定しなかったこともあり、決まった職員が活動プログラムを立案せざるを得ない状況であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～直接支援の職員を4.5名の体制にする。</li> <li>午後の部のふりかえりができていなかったので行うようにする。(一日4回のMTG)</li> <li>活動プログラムについて直接支援の職員全員で立案できるように話し合う場を設ける。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携 こどもが所属する施設の職員や相談支援員と基地の直接支援員が話すことが十分にできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接支援の職員が施設の職員と直接話せるのは送迎時のみ。</li> <li>職員数が基準人員ギリギリということもあり、開催されるサービス担当者会議や連携会議に参加するのが難しい状況があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度は直接支援の職員もサービス担当者会議や連携会議に参加できるようにしていく。</li> <li>連携会議においては直接支援の職員が必要と感じた時には声を上げるようにする。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族支援 保護者同士でお話できる機会を基地がもっと作れたら。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の新しい職員体制での開所再開以降、職員や事業所としても安定させていくことが優先となり、茶話会などの定期的開催が難しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度は茶話会がもう少し多く開催できるようにする。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域 地域支援や地域活動といったところができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の新しい職員体制での開所再開以降、職員や事業所としても安定させていくことが優先となり、地域にまで目を向けられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触れ合うことだけが地域連携ではないと思うため、こどもたちが「地域を知る」ところから始め、こどもからの発信も大切にしながら、徐々に「地域を感じる」、そして活動を拡大していけたらと考える。</li> </ul>